

【事業報告】

事業の概要

<公益目的事業>

I 社会経済史・経営史関連事業

- (1) 当文庫の紀要である『三井文庫論叢』の第52号(2018年)を刊行した。
- (2) 研究員各自のテーマに沿って社会経済史・経営史にかかわる研究を進めた。また、三井文庫主催の研究会の開催、外部の学会・研究会等への参加(発表)、共同研究の主催、外部機関主催共同研究への参加なども行った。
- (3) 三井越後屋の仕入・販売関係並に奉公人関係資料、三井鉱山関係資料、三井金属鉱業関係資料、旧三井物産在外支店関係資料などの調査・収集を進めた。
- (4) 資料の保存と利用のため、資料のデジタルスキニングによる複製作成並にマイクロフィルムからのデジタル画像作成を進めた。書庫内の資料保存環境整備を進めた。
- (5) 三井関係映画フィルムをデジタル動画化した。
- (6) 旧三井物産関係資料、三井鉱山本店資料等の新規(追加)公開を行った。
- (7) 所蔵資料分類目録の整備、所蔵図書目録のデジタルデータベース化などを進めた。
- (8) 公的諸機関(地方自治体史編纂等)の資料調査、賛助会社等の広報活動・資料保存・社史編纂、報道関係の取材などに協力した。
- (9) 賛助会社向けならびに一般向けの講演会等に講師を派遣した。
- (10) 関係会社、資料保存関係者などの三井文庫見学を受け入れた。
- (11) 資料保存関係機関が開催する研修会・研究会などに参加した。
- (12) 三井文庫資料叢書「三井大坂両替店『聞書』2」の校正作業を進めた。
- (13) 科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金の交付(5件)を受け研究を進めた。

II 文化史・美術館関連事業

A. 文化史関係(資料の保管整理研究事業)

- (1) 特別展図録の発行で執筆の協力をした。
 - 特別展図録『没後200年 大名茶人 松平不昧』(NHKプロモーション4月発行)
- (2) 展覧会図録を作成した。
 - 特別展図録『金剛宗家の能面と能装束』(三井記念美術館6月発行)
 - 特別展図録『「^{かたち}仏像の姿」～^{ほほえ}微笑む・飾る・踊る～』(三井記念美術館9月発行)
- (3) 『三井美術文化史論集 第12号』を発刊した。

- (4) 文化財保護法第53条の規定に基づく公開承認施設として、平成26年9月17日より平成31年9月16日までの期間、文化庁より認定中。尚、2019年度に行う認定の再申請に備え、既存の展示台60台を処分し、有害ガス発散防止処理を加えた新たな展示台60台を製作した。
- (5) 文化史資料の整理・調査・研究を行い、論文・解説の執筆、研究誌への投稿、各種学会・シンポジウムへの出席、他館・個人所蔵家等への資料調査などの活動を行った。
- (6) 他館における展覧会等に所蔵文化史資料を出品し、学術文化の振興に寄与した。

B. 三井記念美術館関係（資料の公開事業）

- (1) 今年度は、下記の6回の展覧会を開催したが、平成30年4月1日から平成31年3月31日現在までに合計152,901人が入館した。平成17年10月8日の開館以来の累計入館者数は2,246,329人となった。
 - ①「三井家のおひなさま 特集展示 三井家と能」（前年度より引き続き開催）
（平成30年2月10日～4月8日） 入館者数 2,653人
 - ②「特別展 大名茶人・松平不昧 ―お殿さまの審美眼―」
（平成30年4月21日～6月17日） 入館者数 38,133人
 - ③「特別展 金剛宗家の能面と能装束」
（平成30年6月30日～9月2日） 入館者数 15,718人
 - ④「特別展『仏像の姿』～微笑む・飾る・踊る～」
（平成30年9月15日～11月25日） 入館者数 53,298人
 - ⑤「国宝 雪松図と動物アート」
（平成30年12月13日～平成31年1月31日） 入館者数 24,858人
 - ⑥「三井家のおひなさま 特別展示 人間国宝・平田郷陽の市松人形」
（平成31年2月9日～3月31日）※会期終了日4月7日 入館者数 18,241人
- (2) 各展覧会に関連し、小・中学校の教職員研修会、親子鑑賞会、小中学生・高校大学生等を対象とする教育普及活動に積極的に取り組んだ。
- (3) 土曜講座・展示解説など、一般客を対象とした普及活動を行った。また、中央区の要請を受け、区民対象の生涯学習の場として「中央区民カレッジ」（合計5回）を前年に引き続き開催し、地域の文化振興に寄与した。

Ⅲ. 松の茶屋保存公開事業

今年度は、「柏の間」の老朽化した屋根を中心に、吉野・梢の間外壁等修繕工事を実施した。「公開」に関しては、平成30年11月に箱根町が見学者を募集して主催する「松の茶屋探訪

会」を開催し、午前7名、午後11名、計18名の見学会を実施した。

また、同じく11月に外部講師として岡山理香氏（東京都市大学准教授）を招き「松の茶屋と仰木魯堂」についての研究会を実施し、鈴木康弘箱根町立郷土資料館館長・由井常彦常務理事文庫長・三井記念美術館参事・学芸部長、社会経済史研究室研究員・司書等三井文庫職員11名計13名が参加した。

<収益事業>

I 不動産賃貸事業

三井花桐ビルは、4階部分のテナントの入退室があったが、現在は全フロア満室となっている。また、今年度はエレベーター制御部更新工事・自動ドア整備工事・積算電力量計交換工事等を実施した。

<事務局関係>

I 役員会・役員人事

平成30年6月14日開催の評議員会において、同日をもって任期満了となる評議員の改選を諮ったところ、岡村正評議員の後任として、室町正志氏（株式会社東芝特別顧問）、榊原定征評議員の後任として日覺明廣氏（東レ株式会社代表取締役社長）、吉沢勝評議員の後任として福岡正博氏（富士フィルムホールディングス株式会社執行役員総務部長）を新たに選任し、その他の評議員23名の重任が承認された。

II 総務・人事関係

平成31年3月に社会経済史研究室の司書が1名定年退職した。